長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者　後藤隆徳

年月日　　平日＝２０１１年０２月１０日（木・晴）＝１９名
　　休日＝２０１１年０２月２７日（日・晴）＝２０＋２名

回　数　　２００９期＝第２１回巡礼
　　２０１０年＝第１０回巡礼

巡礼寺・順　　●八十六番札所　安楽寺（あんらくじ）

＊ 本尊・釈迦如来
＊ 本尊真言　のうまく　さんまんだ　ぼだなん　ばく
＊ 山号・吉祥山
＊ 宗派・曹洞宗（最勝院・末寺）
＊ 草創・不明
＊663(天智天皇時代)行基が、当地に来て自から彫り上げた、如来像を祭祀したのが始まりです
＊ その後山崩れで再興不能になり、荒廃が続きました 1534(天文三年)最勝院の僧・精賢が寺を整え安楽寺と改称、曹洞集に改宗した
＊ 樹齢千年を越える、大楠の木

●八十七番札所　大行寺（だいぎょうじ）

＊ 本尊・阿弥陀如来
＊ 本尊真言　おん　あみりた　ていせい　から　うん
＊ 山号・専修山
＊ 宗派・浄土宗（増上寺・末寺）
＊ 草創・1576(天正四年)
＊ 秘仏・聖観音像が祀られている観音堂があります。
＊ 僧・三誉が創建する。
＊ 1854(安政元年)日露和親条約が結ばれ、翌年二年二月ここで日露交渉が行われた。

距　離　　土肥・松原公園～戸田・大行寺＝約１６Ｋｍ

タイム　　下土狩７：２０－修善寺―土肥・松原公園８：４５－安楽寺９：００～３５－焼却プラント１０：４５－舟山（昼食・休憩）１１：１５～

１２：１５－西伊豆歩道入口１２：３５－峠１２：５０－大行寺１４：００～１４：２０－大仁・一二三荘

温　泉　　大仁・一二三荘（入浴３００－、休憩５００－）

法話等　　大行寺（休日）１０００－

引用文　　「伊豆霊場振興会」ＨＰから引用しました。

今期は８月巡礼を休まなかったので、その後の行程が楽になった。２月に入り寒さは和らぎ、日の出も早く、気持ち的に余裕がある。

バスは修善寺で下田の２名を乗せ土肥に向かう。休日時は、土肥・松原公園の「土肥桜」が満開だった。大きな犬がいた。調べてみたら「ボルゾイ」という大型犬だった。１ｍ以上大きくなる犬だが、聞いたら家で飼っているそうだ。トイレを済ませ出発。

平日班

休日班

ボルゾイ犬

八十六番・安楽寺は近い。山門の前に樹齢１０００年の楠木が立っている。楠木は巨木になる。函南の２０番札所・養徳院近くの天地神社にも大きなものがあり、これは以前見学している。

本堂でお勤め後、境内の金鉱跡から湧出する「鉱湯（まぶゆ）」温泉を見学。穴を潜って行くとすぐ左手から温泉が出ていた。Ｍさんが手を入れてみると、程良い温度で「入ってみたいな～」だった。

狭い坑道を辿ると行き止まりで、お地蔵さまが安置してあった。こんないい温泉を流し放しでは勿体ない。山門の楠木で記念撮影。

安楽寺

鉱湯（まぶゆ）

古い道標

寺を辞し土肥の街中を進み、海を左手に見て小土肥に向かう。小土肥は県道を通過しないで、西伊豆歩道を進む。途中に「右　戸田」の古い道標があった。ただ、いつ頃のものかは不明。

２回県道を横断して舟山目指して歩く。途中にゴミ焼却場と火葬場がある。もうここは沼津市。しばし休憩。Ｋさんが例の「おイモ」を出してくれた。

舟山にはトイレがある。少し早いが平日・休日共ここで昼食・休憩をとる。休日時は手前の広場に見事な桜が満開だったので、そこにバスで戻り昼食とした。

見事な桜

昼食後、再び巡礼。しばらく県道を歩くと右に西伊豆歩道入口がある。戸田まで県道の半分くらいの時間で行ける。ちょっと荒れているが問題はない。

県道を横切ると峠で石碑・地蔵さまが並んでいる。この峠は昔、戸田～土肥を結んでいた峠。

石碑には、「文化四卯年　為奉順禮　西國三十三所供養塔」「三月　吉禅日　土佐」（？？）と刻まれてあるようだ。供養塔は、西国巡礼で世話になった方の感謝の表れと事故にあった方の供養だろうか。峠を下ると荒れた段々畑跡、それを囲む手積の石垣が続く。その下にまた古の道標があった。

「右は、「右ハ（は）へ（山・やま）みち」と読める。指差しの絵があって、下は「左ハ（は）とい（土肥)」と読める。

これもそれ程古くはない感じだが、峠の石碑と同年代のものだろう。

古の道標

ミカン畑を通過し戸田に降りて行く。休日時、途中の川でイノシシ２頭と散歩している御仁がいて驚いた。まだ、それ程大きくないが、近くの人の話ではもう、山に戻せないだろうとの話。

大行寺

修善寺・熊坂
薬王寺住職

八十七番・大行寺に到着。２年前元気だった住職は体調不良で通院中で不在。休日時は修善寺熊坂の薬王寺住職の息子さんが応対してくれた。息子さんは優しい感じの方だった。２年前、父君の藤尾啓心住職はこんな話をしてくれた･･･。

教育勅語は、人間教育の基本をうたっており特に家庭教育が大切であることを言っているが核家族化によりそれが失われていると・・

教育には大きく３つあると言う。１つは、家庭教育。２つは、社会教育。３つめは知識教育。その中でも一番大切なのは、家庭教育だという。

住職は清水町の出身で５歳の時に母親を亡くし祖父母に育てられ、家庭教育を受けた。特に朝食前に合掌し「生きていくために、如来様の・・・・・」を唱えさせられたことは忘れられないという。

また、幕末の地元戸田生まれの上田寅吉は、文政６年戸田大中島で生まれた。下田港の地震で被害を受け戸田で修理する為移送中駿河湾で沈没したロシア軍

艦ディアナ号の代艦ヘダ号建造のため、３１歳（寺の小冊子では２２歳とあるが誤り）で船大工の副頭取に選ばれ約２００人の仲間達と洋式の造船技術を習得しながら舟を完成させ、ロシアの乗組員達は母国に無事帰還大いに感謝される。その後も戸田―ロシアの民間交流は今も続いている。

その後、幕府の命で６隻を造船（君沢型と呼ばれる）したが、幕末の対外情勢キビシイ中その才能を認められ、長崎の海軍伝習所に→榎本武揚と共にオランダ留学（４年）→新政府軍との戦争（函館五稜郭での戦）→敗れて服役→を経て、明治政府の横須賀軍艦造船所（後の海軍工廠）の初代工長となり多数の艦船の建造に携わる（戸田造船資料博物館の庭に寅吉の功績をたたえる記念碑がある）と住職の話。

なお、三島駅南にある楽寿園の寄贈者、緒明家は戸田出身。緒明家の先祖、嘉吉は前出の上田寅吉らと共に幕府の造船技士に抜擢された人である。その子菊三郎は当時 10 歳であったが、父嘉吉を手伝って西洋式造艦を体験。

戊辰戦争では榎本武揚に従い修理工として旗艦開陽丸に乗り込むも、父嘉吉病気悪化の為函館には行かず、緒明家を継ぎ東京京橋で造船所の経営。海運業、志摩半島鳥羽湾の埋立て工事、銅鉱石の採掘と精錬所の経営、伊豆や関東各地での植林や開墾など、多角的な事業を展開。娘婿の圭造は大正の末、朝鮮の李王家が三島に所持していた別邸と庭園を買い取り、一部が三島市に移管され楽寿園となった。

今日は大行寺で終了。戸田峠を越えて大仁・一二三荘に向かった。

平日班

休日班

いずれも安楽寺